

1. 調査の目的

灰塚ダム周辺において、食物連鎖の上位に位置している猛禽類の生息状況について調査をしています。

特に、今回は生態系ピラミッドの頂点に立つクマタカについて繁殖の成否、環境の利用の仕方(ウェットランドを使っているか)に注目して調査を進めました。この成果はウェットランドの維持管理に役立てる予定です。

2. 調査の実施状況

(1) 調査の実施日と今後の予定

調査は、クマタカ的生活サイクルを踏まえ、年4回実施します。

月日	内容
平成21年4月24日～26日	4調査定点×3日
平成21年6月11日～13日	4調査定点×3日
平成21年9月実施予定	4調査定点×3日
平成21年12月実施予定	4調査定点×3日
平成22年2月実施予定	4調査定点×3日

(2) 調査の方法：定点調査法

今回の調査では、決まった場所(定点)から一定時間(1回につき3日間合計20時間以上)、調査対象とする猛禽類を望遠鏡や双眼鏡を用いて探します。発見したら種名、個体数、性別、年齢、確認位置、および行動等を記録します。



双眼鏡や望遠鏡で、山の斜面上や上空を飛ぶ鳥たちをくまなく探します



調査状況

3. 猛禽類の確認状況

【クマタカの確認状況】

6月は一般的に、クマタカの繁殖が順調に進んでいけば巣にヒナがいる、親はヒナに餌をはこんでくる時期にあたります。灰塚ダム周辺に生息するクマタカのつがいについては、巣と、巣内にいるヒナを確認しました。大きさや羽の生え具合から考えて、このヒナは卵からかえって55～60日経っています。

灰塚ダムが完成して水を湛える前の平成18年に、当地のクマタカは一度繁殖に成功しています。ダム完成後も、前と同じように繁殖していることを今年度確認できました。

【その他のタカ類】

クマタカ以外に6種の猛禽類(ミサゴ、オオタカ、ハチクマ、サシバ、ハヤブサ、フクロウ)を確認しました。

このうちのサシバは、冬は東南アジアなどで過ごし、春に日本に渡ってきて繁殖する夏鳥ですが、調査地内で繁殖していることを確認しました。

成鳥が餌を運んでおり、巣の中には少なくとも2羽のヒナがいました。サシバはカエルやトカゲ、虫などを好んで食べるタカの仲間、湿地や田んぼ、樹冠などで餌をとっていることがあります。今回調査時にも、湿地の上空を飛翔して、餌を探すような動きが見られました。



■クマタカの巣内ヒナ(6/12)。大きさや羽の生え具合から、ふ化後、55日～60日と思われる。



■サシバの成鳥(6/12)。



■サシバの巣内ヒナ(6/12)。ふ化後15～20日を経ているものと思われる。

4. その他の鳥類の確認状況

現地調査時には調査定点付近に出現する鳥類全般の記録を取っています。灰塚ダム一帯にはサンコウチョウ、フッポウソウなどの夏鳥が訪れ、繁殖しています。



■サンコウチョウ
夏鳥。調査地内のあちこちでさえすっていました。(6/12)



■フッポウソウ
夏鳥。調査地内の巣箱で繁殖しているようです。(6/12)

